

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：乙津川河口域における干潟環境の復元への取組		
水系／河川名：大野川水系乙津川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：1465km ²	整備計画流量：1500m ³ /s	セグメント：2-2
事業：河川改修	事業開始年度 平成25年度	
目標設定：定性的	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全、干潟、浅場の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(高水敷)		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

【今回の取組の背景】

- ・昔の乙津川河口域には、潮の干満により特異な環境の場を創出する「干潟」が存在。
- ・高度経済成長や河川空間の利用に伴い、**埋立や高水敷の整地により干潟環境が減少**。

【地域の情勢の変化】

- ・近年の大規模出水の発生により、**地域住民の「治水対策」への要望が高まる**。
- ・「干潟環境」に関して、乙津川の**塩生湿地植生の調査や保護活動**が実施される(大分県)。

【設計コンセプト】

「治水対策」としての**高水敷の掘削**により、潮の干満による冠水を可能にして、「**干潟環境の復元**」を目指す！

【目標】

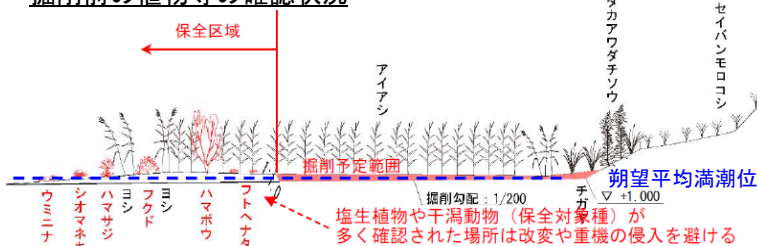
- (治水面) 河道掘削による出水に対する安全性の向上。
- (環境面) 干潟環境の復元(1960年代に特徴的な風景であった**ハマツナの群生の復元**)

取り組み内容・対策例

河道掘削のポイント

- 高水敷の整地前の地形や干満の影響を踏まえた掘削高さの設定。
- 事前調査により**塩生植物や干潟動物が確認された水際の変更は避ける**。

掘削前の植物等の確認状況



施工直後の状況



有識者との現地立会

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

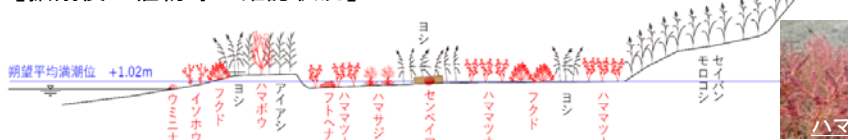
河道掘削後の環境変化

- 掘削範囲及び変更を避けた水際で**塩生植物、干潟動物の継続的な確認**。
- 1960年代に特徴的な風景であった**ハマツナの分布範囲の増加**。

今後の取組

- 近隣の河川改修箇所における**取組の反映及び事業効果の検証**。
- 保全活動団体との連携**による干潟環境の保全。

【掘削後の植物等の確認状況】



ハマツナ



環境検討委員会の現地視察



1960年代(復元目標)



2000年代(高水敷整地)



現在(2017年)



河川ボランティアと国交省職員等による清掃活動

備考

問い合わせ先 九州地方整備局 大分河川国道事務所 河川管理課

電話番号 M89-751-336

乙津川河口域における 干潟環境の復元への取組

Keywords : 河口干潟, 高水敷掘削, 塩生植物・干潟動物



◀ 復元目標とした1960年代の
高水敷のようす



● Before

◀ 整地された
2000年代の
高水敷のようす



● After

現在の高水敷のようす ▶
(2017年)



高水敷の整地などにより減少した乙津川の河口干潟について、時代の変化による地域の意識転換をふまえ、「治水対策」として実施する高水敷の掘削により潮の干満による冠水を可能にすることで、「干潟環境の復元」に取り組んだ事例について報告する。